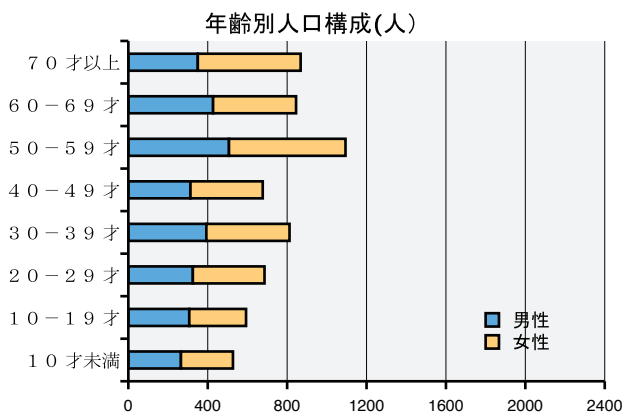


位置図



1 居住者の現況

人口(人)	6,102
世帯数(世帯)	2,248
65歳以上人口(人)	1,241
65歳以上世帯(世帯)	407
5歳未満人口(人)	235



2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

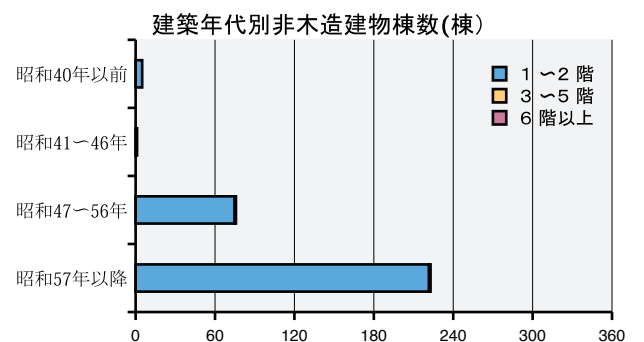
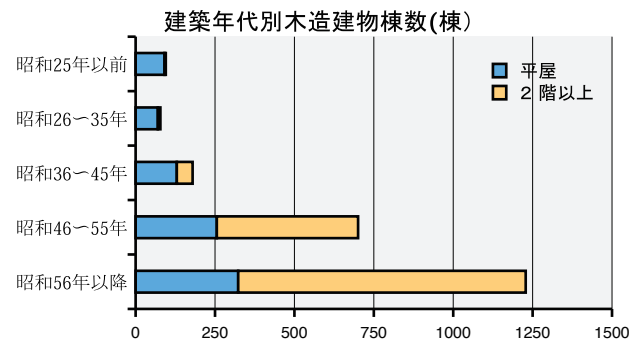
木造建物	2,281
非木造建物	305
合計	2,586

■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	323	905
昭和46年～昭和55年	256	445
昭和36年～昭和45年	130	50
昭和26年～昭和35年	70	8
昭和25年以前	91	4

■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	222	1	0
昭和47年～昭和56年	75	1	0
昭和41年～昭和46年	1	0	0
昭和40年以前	5	0	0



自然的・社会的基本指標

旧秋田市南部の雄物川右岸(東側)に位置しており、平坦な地形となっている。地盤は沖積層が広く分布する。学校区の北部に近年開発された住宅が集中しているほかは、自然堤防上に集落が営まれている。その他は農業用地となっている。人口構成は偏りの少ない構成となっている。65歳以上の高齢者層は、全体の20%である。昭和56年以降に建築された建物が全体の56%を占める。

3 急傾斜地等の現況

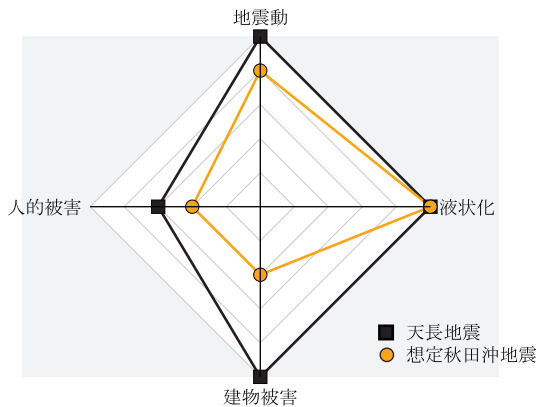
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(2)	猿田堤沢、大杉沢
なだれ危険箇所(0)	該当箇所なし
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険渓流(1)	井戸の沢

4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 強	6 弱
液状化危険度	ランク 5	ランク 5
木造建物大破数(棟)	270	34
非木造建物大破数(棟)	24	3
死者数(人)	24	2

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6 強となる。雄物川沿いの地域を中心に液状化する可能性がかなり高くなり、300 棟程度の建物被害が発生する。また死者数も20人以上と想定される。

想定秋田沖地震では、平均震度が6 弱となる。液状化する可能性も天長地震を想定した場合と比較すると低くなる。建物の大破被害は40棟以下になる。死者が発生する可能性がある。

津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られるが、雄物川への津波の遡上に留意の必要がある。

5 防火・防災施設に関する指標

■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	64
防火水槽(箇所)	13
消防車台数(台)	4
消防ポンプ数(台)	2
消防団員数(人)	60

■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
四ツ小屋小学校	屋内	326
南地区コミュニティセンター	屋内	122
四ツ小屋小学校グラウンド	屋外	6,400

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	1
最寄の救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	14

■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
南地区コミュニティセンター	御野場一丁目5-1

防災上の課題と対策

四ツ小屋小学校区は、北西部が住宅密集地域となっており、その他の地域では広く農用地を主体とした地域となっている。学校区全体の人口構成としては、偏りの少ない構成となっているが、北西部とその他の地域では、構成内容が異なる可能性がある。65歳以上の高齢者比率が学校区全体として高まる傾向がある。地域の実情に沿った、きめ細かな防災対応が必要である。学校区内の避難所(屋内)は北西部に位置しており、その収容人員は人口の約7%程度である。北西部の住宅密集地と比べて、その他の地域では旧耐震建物の比率が高まっているものと見られることから、集落単位で一時避難の方法などを住民活動を通して、検討しておくことが有効である。